

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570706606		
法人名	医療法人 仁恵会		
事業所名	グループホーム夕陽の丘 柳田		
所在地	湯沢市柳田字中嶋227-1		
自己評価作成日	令和2年8月21日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 利用者様、ご家族様が安心してサービスを受けられるよう、毎月の検討会議でサービスを検討し、お一人おひとりのニーズに適したより良いサービスが提供できるように努めております。</li> <li>■ 地域において認知症ケアの拠点として、培った知識と技術を還元できるように年3回認知症カフェを開催しております。</li> <li>■ 利用者様の意欲を引き出し、持っている力を発揮できる環境づくりに努めております。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年9月14日		

<p>アセスメントを基に心身の状況に合わせて意欲、笑顔を引き出す働きかけに努め、字を書くことや塗り絵、食事の準備、敷地内の散歩や畑作業等で生きがいづくり及び機能低下防止に繋げ、適切な支援を行うことでコロナ禍にあっても穏やかな過ごし方ができています。職員は理念の意義を理解し、利用者に寄り添う支援に努めています。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたサービス提供を基本としており、職員研修においても理念・地域密着型サービスの意義に触れ、職員に浸透するよう取り組んでおります。	在籍期間の長い職員が多く、研修やこれまでの経験の中で理念が浸透、共有されており、利用者の安心できる生活に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から行事へお誘いを受け、生活文化祭での作品出展や清掃活動など参加しております。また、地区センターにて認知症カフェを年3回開催し、地域の方が毎回参加して下さっております。	町内会長や認知症カフェを通じて地域の方との交流を継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症カフェを開催し、その中で、認知症への理解を深めていただくため、講話や演劇を行っております。また、相談窓口も設けており、相談に応じております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、サービスを受ける側の思いや要望などをお聞きし、サービス向上に活かしております。また、地域の方の意見もいただき新たな地域資源の活用について検討しております。	ホームの取り組みを報告する機会となっており、特に地域の方からアドバイス等をいただくことによりサービスの向上に活かすことができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GHネットワーク会議や運営推進会議でサービスの取り組みを報告し意見を頂いております。また、認知症予防カフェへも協力頂いております。	包括支援センターや保健師と情報交換を行いながら円滑な協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修にて身体拘束について理解しており、身体拘束は行っておりません。しかし、グレーと思われる対応が時に見られることがあり、毎月の会議で話し合っております。	現在身体拘束の事例はありません。毎月のカンファレンスで状況に応じた対応ができるよう声かけ等について話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に研修を行い虐待防止に努めております。また、職員のストレスや仕事の悩みを聞き、その改善策や対応についても話し合っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し制度を理解しておりますが、利用されている方はおりません。必要とされる方がいらっしゃれば活用出来るよう支援していきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書及び口頭での説明を行い、ご理解いただけるよう努めております。契約時には、疑問点などお聞きしながら、ご家族へ合わせた説明を心がけております。また、退居では、家族が納得された上で手続きを行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や定期的に状況報告を行っており、意見を出しやすいように働きかけております。要望等は、可能な限り対応できるよう努めております。また、第三者機関についての説明も行っております。	家族とは気軽に話ができる関係づくりに努め、意見、要望があれば運営に反映できるよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で、運営に関することも含めた意見交換を行っております。一人一人が組織の一員として働いている自覚と責任を持ち、サービス向上のために意見を出しやすい環境づくりに努めております。	毎月テーマを決めて会議で話し合い、気づきやアイデアを運営に反映させています。また、職員の意見は管理者会議を通じて法人に伝えられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課により、努力や実績、勤怠を把握し昇級、賞与支給を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課や面談により職員個々の力量を把握し、適したレベルの内部研修へ参加できるように研修機会を確保しております。ほか、資格取得奨励支援金制度により、意欲向上と負担軽減を図っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に市内GH管理者ネットワーク会議を開催しており、情報交換など行っております。ほか日本認知症GH協会を通じて県内外のGHの方々とのネットワークを活用しサービス向上に反映しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他機関とも連携し情報をいただいた上で、ご本人のお話をお聞きし、安心して満足なサービスを提供できるように努めております。入居時は不安な気持ちも強いと思われるので、お話を傾聴しながら本人の想いをくみ取れるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階では、家族の気持ちや想いに寄り添い、報告を行いながら利用者にとって必要とされる支援と一緒に検討し、安心して頂けるよう努めております。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念である『自立と相生』のもとに、利用者の尊厳を護り、お互いに支え合える関係づくりに努めております。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のお力をお借りし、相談しながらサービスを決めており、入居後も利用者と家族が良好な関係を築けるように配慮しております。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を頂きながら、馴染みの場所へ外出できるよう配慮したり、気軽に友人の方がホームに来ていただけるようお声がけをしております。	初詣、家族と墓参りに出かけ、職員と1日を振り返りながら日記を続けている利用者もあり、生活習慣が継続して行えるように支援しています。中止になった市の伝統ある夏祭りをホームで体感できる支援も行われました。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席に配慮したり、利用者同士が協力しながら、仕事やレクリエーションが行える環境づくりに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談を受けたり、必要に応じて支援を継続しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位に検討できるように家族にも意見をいただいております。また、日常生活の中での利用者の会話からも思いや要望をくみ取るよう努めております。	日常生活の中で気づき等を記録してアセスメントしています。利用者の現状を報告することで家族から意見をいただき、介護計画の見直しに繋がっています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他事業所より情報提供をいただいたり、面会にいらした方にも情報をお聞きし、生活歴の把握に努めております。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、現状把握に努めており、定期的に見直しを行うことで、状態の変化時や支援の変更などを行っております。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で、情報共有を行い、本人・家族の意向を踏まえてサービスを検討し介護計画に反映しております。	アセスメントに基づいて全職員がモニタリングに関わり、計画作成担当が中心となって介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をモニタリングに活かせるよう、気づきや変化があった事などを分かりやすいように記録し、情報共有しております。その結果を踏まえ介護作成の見直しを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の必要な地域資源を把握し、活用できるように支援しております。また、新たな地域資源を見つけることで、暮らしがより豊かになるように努めております。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医があれば継続し受診ができるように支援しております。かかりつけの医療機関へは、ホームの医療体制をご理解いただき、その上で指示や助言を受けております。	利用者個々にかかりつけ医を持ち、それぞれの希望による受診を支援しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携では、併設する老健の看護師の定期的訪問の他、状態変化時などの急変時に相談できる体制が整えられております。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、担当看護師と連絡をとり、定期的に状態報告をお願いしております。退院時には、退院カンファレンスに同席し、退院後のリハビリや病状の観察についても助言をいただいております。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの指針を説明しておりますが、状態に変化があった際は、都度報告し家族と今後の対応を確認しております。何度か話し合いを設けることで家族の精神的な負担の軽減に努めております。	終末期の体制が整っていないことから、重度化した場合には他施設への移行や法人間での連携を検討し、次の支援に繋げています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受講しております。定期の勉強会では、急変時等の対応方法、連絡手順について学んでおります。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害・災害時に備え、併設する老健と協力しながら訓練しております。地域の消防団の方に訓練に参加いただいている他、運営推進会議でも過去の災害の教訓を活かしアドバイスいただいております。	複合施設となっていることから、法人間で協力体制を築いています。今後、市の防災無線が整備されることになっている他、有事には情報を率先して収集し、災害に備えることにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『脳活性化リハ5原則』を活用し、やる気や相手が認められていると感じていただける言葉かけに努めております。入居することで、利用者のプライバシーに触れることを勉強しており、最大限配慮し対応させて頂いております。	利用者の行動を認め、していただいたことにはお礼を言って一人ひとりの尊重に繋がっています。優しさの感じられる穏やかな声かけで接している様子が見られました。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の希望を言えるように、日頃からコミュニケーションをとり関係づくりに努めております。自己決定を基本とし、分かりやすく説明したり、お部屋でゆっくりとお話を伺い思いをお聞きしております。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ゆっくり のんびりと」を生活方針に掲げ、お一人おひとりのペースに合わせて、その日の過ごし方を決めて頂いております。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生日や忘年会では、その方の好みに合った洋服をプレゼントし、喜んでいただいております。日常では身だしなみに配慮し、おしゃれができるように支援しております。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を活かし、一緒に食事作りや片付けを行っております。季節の食材を使った料理や行事に合わせた食事を提供し喜んでいただいております。	職員と一緒に準備をして同じテーブルを囲んでおり、必要な利用者にはその人のペースでゆっくり食事ができるようにサポートしています。仕出し弁当を手配し、外食気分が味わえる工夫をして楽しんでいただいております。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、法人の管理栄養士に指導を受け作成しております。摂取量が少ない利用者には、その方が好む飲み物や食べ物を数回に分けてお出しするなど、無理なく必要量が摂取できるように配慮しております。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っております。協力医療機関が歯科のため、往診に来ていただき治療を行っている方もおります。気軽に相談させていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、トイレで排泄が出来るよう、一人ひとりの排泄パターンに合わせて誘導しております。ほか、オムツの形態や種類もその方に合わせ使用しており、快適に過ごせるように支援しております。	利用者に合わせた自立支援を心がけ、トイレでの排泄を支援しており、歩行訓練も兼ねて機能低下防止に繋がっています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操を日課としており、散歩などの運動も行っております。便秘予防として、水分が摂れるように工夫したり、牛乳やヨーグルトなど乳製品を摂取していただいております。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限りご要望をお聞きし、時間や入浴日を調整し対応しております。また、一人ひとりがゆっくり入浴していただけるように、その方の好む入浴時間の長さやお湯の温度などに合わせて対応しております。	強く拒否する利用者もなく、週2～3回のペースで入浴しています。浴槽に浸かることのできない利用者にはシャワー浴で清潔が保てるよう支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を多くし、夜間の安眠に繋がるように努めております。就寝時間は、その方の生活習慣に応じて対応しており、電気や空調にも配慮しております。日中は、表情をみながら休息していただくなど配慮しております。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には、かかりつけ薬局より、副作用などの注意点をお聞きし観察しております。状態に変化がみられた際はすぐに主治医に相談しております。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中のレク活動では、その方の力を活かした取り組みができるように、食事作りや作品作り、園芸活動、裁縫など幅広く活動していただいております。毎月行事も計画しており、楽しみにされております。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	このような時期のため、今までより外出頻度は少なくなっておりますが、感染予防対策を行い、地域や敷地内を散歩したり、ドライブなどで戸外に出掛けられるように努めております。	敷地内を散歩したり、畑作業やプランターのお世話をしたりして外気浴しています。車上からお花見する等、コロナ禍にありながらも気分転換できるよう配慮しながら外出支援が行われています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ちのお金がないことに不安になられる利用者様もあり、少額ですが所持して頂いております。利用者様がお金を使う機会がないため、使える場を検討して行きたいと考えております。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナウイルス感染防止対策のため、面会を中止していた期間もあり、電話でお話されたり、オンライン面会の準備を行っております。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気、光、温度調整を行い快適に過ごせるように配慮しております。また、季節を感じて頂けるよう季節ごとの装飾やお花などを飾り、居心地のよい空間づくりに努めております。フロアには、台所もあり、食事作りの音や匂いなど生活感ある空間となっております。	トイレが数ヶ所と多く、安心感があります。昔の街並みやスターの写真が利用者には懐かしく、話題づくりに役立っているようです。塗り絵やさまざまな書き物が廊下に飾られ、機能低下防止に繋げる取り組みの様子がよくわかります。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有区間では、スペースが狭く独りになれる空間を確保するのは難しい状況ですが、廊下にソファを設置したり、気の合う利用者様同士がお話出来るように配慮しております。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れたタンスや置物などをお持ちいただいたり、くつろぎやすいように温度調整などに配慮しております。また、その方の好みのお部屋になるよう装飾などの工夫をしております。	身体状況に応じてベッドの配置を変更する等、その人の生活スタイルに合った過ごしやすい環境づくりをしています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて手すりを設置したり、福祉用具を導入するなど安全に過ごせる環境づくりに努めております。また、利用者様の状態に合わせて、物が取り出しやすいよう置き場所などを工夫しております。		